

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小布施「景感」の試み～あかりで魅せる小布施の景観～
事業主体 (連絡先)	小布施景観研究会 会長 久保 敏幸 ()
事業区分	環境保全、景観形成
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,235,770 円 (うち支援金: 944,000 円)

事業内容

1. 景観形成上重要な建築物、庭、道等をライトアップし、夜景観の形成の豊かさを伝えるとともに、これらを連続させていくことで、夜間の散策ルートを提案した。
2. ライトアップしたものを撮影し、「景感」写真集を作成した。昼間の景観との比較も行うことで、景観づくりのポイントとライトアップの方法を解説する2つの目的を達成することができた。
3. 次世代のエネルギーを学び伝えるために実際にかかる費用を計算して、照明景観の管理上の費用面を周知した。実際電気料金を事業主体側にて負担したが、投光器LED13W×10台以上使用してもとして、料金換算により、約1ヶ月1,000円程度で済んだ。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1. 地域住民、来訪者の散策・交流機会が増えた。クレームよりも、明るくなってよかったという意見や、撤去後、「暗くて困る」などの声も聞かれた。約25名(人/日 観測時)×37日≒**925人**
2. 小規模な設備でのライトアップ効果を体感することにより家庭内に於いて小さな空間を効果的にみせる事ができた。比較的小さな照明を複数利用したことで、灯りをたどる効果を見せることができた。壁面ライトアップを合わせて、散策を意識した実験的な試みとなった。
3. 普段人が動かない時間に来客を促し、住民が改めて自分の町の美術館を訪れる機会を創出し、町の宝の価値を再認識する機会を提供できたことは文化観光としての意義が大きい。また、暗かった道が明るくなることで、生活者にとっても安全な道がつけられることが実感でき 今回の事業を町長へも報告した

今後の取り組み

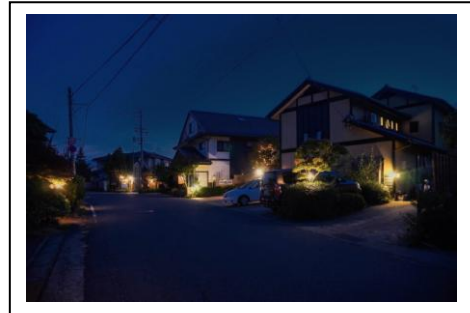
※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回作成したあかり景観事例を活用し、今回の活動を住民の方へ知ってもらい景観に対する意識を持ってもらう。さらに、町内で店舗を開店する方にも、今回のような夜景観への配慮を持ってもらえるよう、会員を通じ、本業の中でも活用することで、景観形成に対する意識を高めてもらう。今回作成した資料(照明実験の画像やイベントなど)は、役場や観光協会でも活用してもらう。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【生活空間のライトアップ】

【目標・ねらい】

- ①来場者数
- ②人が来ない夜間に人を呼び込む
- ③成果を見える化して伝える
- ④省エネ化の指標を示す

※自己評価【A】

【理由】

観光視点だけでなく「生活者にとってのあかり景観」を提案することができた。北斎館や岩松院では、SNSを通じ、県外からも来訪者があった。終了後、住民から「暗い」というクレームを頂いた。

(別記様式第12号) (第3の8関係)